

Choho

長崎大学
NAGASAKI UNIVERSITY

ISSN 1347-7994

Autumn

Vol.

69

長崎大学広報誌
[チョーホー]



特集 世界とつながる
長崎大学の
卒業生

ART@CAMPUS

No.15



Title

猫と林檎

小川恵莉さん
中学校教育コース 美術科 4年

「こんな柄のスカートが欲しい」をコンセプトに、自分で描画・構成した絵画作品を、布へ印刷することを試みました。モチーフは、これまで追求し続けている猫を主題にしています。

Choho

長崎大学広報誌[チョーホー]

Vol.69

2019年10月1日発行

<http://www.nagasaki-u.ac.jp/>

特集

世界とつながる

長崎大学の 卒業生



KITAYAMA Syun



MIYOSHI Yasuhiro



NAKAZAKI Kenji



YANAI Tomoko



MURAOKA Wataru



NAKANISHI Takashi

長崎大学には、短期・長期の語学留学や日本と海外の2つの大学の学位を取得できるダブル・ディグリー・プログラムなど、様々な形態の留学プログラムがあり、過去5年間で日本人学生の留学経験者数が70%もアップしています。

そのような環境も影響して、卒業生の中には、

日本と世界をつなぐ懸け橋となって奮闘しているOB、OGが少なくありません。

そこで今回の特集では、世界と接点を持って活躍する卒業生に注目。

それぞれが歩んできた道のりと今後の展望、

そして大学で得た学びがどのような形で今に活かされているのかじっくり伺いました。

卒業後は先輩たちのように世界へ羽ばたきたい！

そんな夢が広がる、貴重なエピソードが盛りだくさんです。

Graduates of
Nagasaki University
Connected to
the World

学長室
だより

若者は世界を目指す

私が長崎大学に入学した1968年に、五木寛之作詞の「青年は荒野をめざす」という歌がザ・フォーク・クルセダーズによって歌われ、大ヒット曲となりました。いつの時代も、若者にとって未来は荒野なのでしょう。荒野の定義は時代によって変遷し、当時の青年が目指した荒野は大都会であったかもしれませんが、これだけ交通網や情報網の発達した現在、若者にとって未開の場所は世界に違いありません。未開の地を進む若者を想像するだけで頼もしく感じます。やはり世界へ出るべきでしょう。

世界とつながる若者を全面的に支援する長崎大学は、9つすべての学部で海外の大学と連携協定を結び、留学生を迎え、また学生を海外に送り、相互の連携を図っています。毎年約600人の留学生が本学に来ており、約450人が海外に出て行きます。特に熱帯医学研究所では、50年以上前からアフリカのケ

ニアにて医療支援活動を行い、現地で100人規模の研究を進めています。また、熱帯医学・グローバルヘルス研究科は、ロンドン大学衛生・熱帯医学大学院とのジョイント・ディグリーを中心とした卓越大学院プログラムに、九州の大学で唯一

選ばれています。2020年4月には情報データ科学部を開設予定であり、中国やインドから10人ほどの留学生を受け入れ予定です。また、同じくインドと中国から教員が就任予定です。

荒野を目指すものにとって、ただ眺めるだけという

ことはあり得ません。自ら交流の中に踏み出すに決まっています。今後若者が自分の夢を追うのであれば、大学側も国際化に向けて前進し、世界を意識しないと生き残れないと考えています。長崎大学は、海外へ飛躍する多くの若者が夢を実現できるよう、しっかり貢献したいと思います。



河野 茂

CONTENTS

長崎大学広報誌
[チョーホー]
Choho Vol.69

本誌記事を長崎大学関係者が転載する場合は、「長崎大学広報誌Choho vol.〇から」と明記してください。学外の方は、事前に広報戦略本部までご連絡願います。

学長室だより	若者は世界を目指す	1
特集	世界とつながる長崎大学の卒業生	2
サークルの星!	龍踊部/E-Rockers/囲碁同好会	15
Topics	第7回 長崎地域医療セミナー in GOTO報告	17
グラバー園譜	ノリスズミ/山口敦子	19
Information	長崎大学公開講座 クイズ&編集後記	21

表紙のはなし

のびのびと迫力満点に宙を舞う龍。巧みに操っているのは、長崎大学龍踊部の皆さんです。龍踊と言えば、秋の大祭「長崎くんち」で奉納される出し物の一つですが、龍踊部も地域のイベントなどに引っ張りだこ。稽古に励む中、この日は特別に本番用の龍と衣装を身に付けて華やかな演技を披露してくれました。龍踊部の詳しい活動内容は、今号の「サークルの星!」をご覧ください。



世界とつながる

長崎大学の卒業生

Graduates of Nagasaki University Connected to the World

目の前の人を救いたい それがアフリカへの恩返し

産婦人科医 三好康広さん MIYOSHI Yasuhiro

ザンビア



Profile

みよしやすひろ
愛媛県松山市出身。35歳。2002年長崎大学医学部入学、2006年に4年生で休学しアフリカ縦断の旅へ。復学後2009年卒業。上五島病院、長崎医療センターを経て、2016年ザンビア入り。ザンビアの医師免許を取得後、ザンビア大学病院で研修し、ジンバブウェン病院に赴任。現在は長崎医療センター非常勤医師。12月にはザンビアに戻る予定。

アフリカ縦断での出会いが その後の人生を決める

アフリカのザンビア共和国で医師として働いている三好康広さんは、長崎大学医学部の卒業生です。医局や組織に属さないフリーランスの医師として、ザンビアで働きながら、何年か一度帰国し、日本の病院で非常勤医師として勤務しています。

「ザンビアのジンバという地方都市の病院で働いています。医師が少ないので内科や外科も診ますが、専門は産婦人科です。日本と違い、アフリカでは産婦人科の需要が最も高いのです。そもそも医師は中心部の病院にしかおらず、田舎の診療所では看護師しかいません。私は医療にアクセスしづらい人々にできる限り最良の医療を提供したいのです」。

ずいぶん過酷な旅ですね。

「その時に、ケニアであることが起こりました。バスですごく体調が悪くて嘔吐と下痢に苦しんでいる私を、隣の席のおじさんが家で休んでいけと助けてくれたんです。ついていくと、その人はスーダンの紛争から逃れてきた難民でした。その集落で、私は家に一つだけのベッドに寝かせられ食べ物ももらって看病していただきました。本当にありがたくて感銘を受けました。私が働くのはアフリカしかない、アフリカに恩返ししよう、と決めました。その後も旅の先々で自分が医学生だということ、じゃあうちの子どもを診てくれ、親の具合が悪いんだ、と相談されるけれど、教科書の知識しかない私には何もできない。無力感の一方



「学生に講義するときによく『型にはまる必要はないんだよ』と言っています。不安もありますが、自分で決めた道ですから」。写真は先生が帝王切開を行った患者と赤ちゃん、アメリカから来た実習生とともに。

で、この地で何が必要とされるかをしっかりと見ることができました」。

型にはまらず、意志と情熱があれば道は開ける

医学部を卒業して医師免許を取得した三好さん。以降の行動は計画的でした。

「研修医として二年勤めた後、通常は専門科を決めて医局に配属されます。私は、上五島病院で一年間は内科、翌一年間は整形外科で働き、その後の三年間は長崎医療センターで産婦人科に所属していました。多産で妊婦や乳幼児の死亡率の高いアフリカでは、産科、外傷を治療できる外科、そしてHIVなどの感染症を診られる内科のニーズが特に高く、その三科を集中的に学んで、ザンビアへ入りました。英語圏で、外国人の医師でも一定以上の英語のスキルがあれば医師免許の試験を受けられ

私が影響を受けた映画

『パッチ・アダムス』:患者の立場と気持ちになれる医師になりたい! と心底思いました。

『風に立つライオン』:アフリカ行きの準備をしていた頃に見て、背中を押されるような気分になりました。モデルは長大医学部の柴田紘一郎医師なのです。



『風に立つライオン』
DVD/Blu-ray発売中
発売元:パッチ
©2015 風に立つライオン製作委員会



のケアも自分でやらなければいけません。母体死亡率だけでなく新生児の死亡率も下げたい、それが私の今後の課題です」。

実は三好さん、テレビ番組「世界ナゼそこに?日本人」(テレビ東京)で紹介され、それをきっかけに医学生たちを受け入れることが増えたそうです。

「医療系の学生たちが三十七人來ましたね。みんなモチベーションが高くアフリカの医療の現実をしっかりと見て帰っていきます。私の活動を、次の世代につながる突破口にしたい。必要とされる場所で目の前の患者を助けたい、それは意志と情熱さえあればできる——三好さんは笑顔でそう語ります。

世界と
つながる
長崎大学の
卒業生

Graduates of
Nagasaki University
Connected to
the World

上質なエビを求めて 世界のライバルと競い合う

株式会社ノースイ 東京支店 海老営業部 主任
北山 峻さん KITAYAMA Syun



Profile

きたやましゅん
大阪府枚方市出身。28歳。2013年
に長崎大学水産学部を卒業後、株
式会社ノースイ入社。凍魚営業部、
加工水産営業部など4部署がある
中、海老営業部に配属となり、入社
後3カ月でインドへ。現在もインドを
はじめとするアジア各国やカナダを
中心に、エビの買い付け業務に携わ
っている。カナダ出張の際には釣り
ざおを持参。休日に魚釣りを楽しん
でいる。

右も左も分らない
入社後すぐに渡ったインド

水産学部を卒業後、農水産物を原
材料とした冷凍食品を取り扱うノー
スイに就職した北山峻さん。入社時
から在籍している海老営業部は、文
字どおりエビを専門とする、業界で
も珍しい部署。アジアやカナダと
いった海外の生産地へ定期的に足を
運び、買い付けなどの業務に携わっ
て七年目になります。

「入社早々、バスボートを持ってい
るか聞かれ、一カ月間のインド出張
に行きました。インドは、養殖エビ
の生産量が中国に次いで世界二位の
国ですが、宗教上の理由で自国では
ほとんど消費しません。生産量と輸
出量のバランスが良いため、現地の
工場で養殖のパナメイエビを天ぷら

競合が多く価格相場の変動が激し
い水産業界。北山さんは入社一年目
から、一千万円分の買い付けを任せ
られたそうです。

「エビにはたくさん種類とサイズ
があり、買い付ける際にはそれぞれ
の相場を追いかけて見極める必要が
ありますが、そのための方法は自分
で学ぶしかありませんでした。最初
はよく分からないまま築地に行き、
仲買や荷受けと呼ばれる大卸さんの
ところに行つて聞き取りをしながら
相場を捉えることから始めました。
数字を見誤ると大きな損につながり
ます。まさに経験が物を言う業界で
あり、プロフェッショナルとして成
長できる分野でもあります」。



諸外国より優位に立つ ポイントは信頼関係にあり

昨年からオマールエビの担当にな
り、カナダへ赴くようになった北山
さん。そこで直面したのは、大学の
講義でも学んだという資源管理の問
題でした。

「全世界のオマ
ールエビの九十パー
セントはカナダと
アメリカの東海岸
で水揚げされてお
り、各政府が漁の
時期や漁獲量を厳
しく制限していま
す。オマールエビ
はもともとアメリ
カが一番の消費国
ですが、中国やベ
トナムなどの消費
が増えてきたた

カナダのプリンス・エドワード島の右下にあるジョージタウンの港。漁を終えたボートが鰻に入っているオマールエビを陸に揚げている様子。

め、交渉は年々厳しくなってきた
る状況です。特に商品に対して高い
品質を求める日本は、他国より優位
に立ちにくい。アジア各国のエビの
生産地でも状況は同じで、他国に向
き始めた目をこちらに向け直しても
らうために、値段は抑えて品質を求
めるという方法ではなく、少々高く
ても、良いものをきちんとした対価
で買い取る交渉をしています。実
際、日本向けの商品を出荷すること
はステイタスにもなります。現地に
とつてのメリットを考慮した上で交渉

用に加工して輸入する新規事業を立
ち上げることになり、僕にも声が掛
かりました。大学生の頃からいずれ
は海外で仕事をしてみたいと思っ
ていましたし、プロジェクトに加えて
もらえてありがたかったです」。

現地ではどのような業務を担当し
ましたか。

「工員の皆さんに、加工工程につ
いて指導する役目を任せられました。現
地では、例えば工員の皆さんが石鹸
で手を洗うことを嫌ったり、時間を
守る意識が低かったり、日本との文
化の違いに驚きました。作業自体も
最初の一年はスピードが遅く、すぐ
に成果は出ませんでした。二年目
ごろから軌道に乗り始め、今では年
間四億から五億の輸入額を誇る弊社
の基幹事業にまで成長しました。初
めて携わったプロジェクトが成功し
たことはうれしかったですね」。

に当たり、信頼
関係を結ぶこと
を大切にしてい
ます」。

南米、オース
トラリア、アフ
リカ、ヨーロッパ。
エビの種類
が豊富なよう
に、その生産地
も世界中に広
がっています。

アジアとカナダ
以外の国でも活
躍できるチャンスはありそうです。

「そうですね。これからも自分が食
べておいしいと思つたものを、たく
さんの人に味わってもらうために、
いろいろ南国に行つてみたいと思っ
ています」。



ベトナム南部のパナメイ
エビを養殖している池。

魚釣りが 大好きだった 少年時代

子どもの頃から魚釣りが
大好きで、水産学部への進
学を目指した理由も水産関
係の仕事に就きたかったか
ら。学部には同じように魚
好きな仲間が多く、講義も
興味深いものばかりでし
た。微生物研究室では、自分
で釣り上げた魚の内臓から
微生物を取り出して研究材
料に。残った魚の本体は、さ
ばいて食べていました。釣り
サークルに入るなど、魚づく
しの4年間でした。好きな
ことを追求する。それが現
在につながっているように
思います。

世界とつながる

長崎大学の卒業生

Graduates of Nagasaki University Connected to the World

人としての懐の深さが 異国で道を切り開く鍵

株式会社GSユアサ 自動車電池事業部 村岡 陽さん MURAOKA Yataru

トルコ



Profile

むらおかわたる 1979年兵庫県丹波市出身。40歳。2008年に長崎大学大学院水産・環境科学総合研究科を修了後、研究者を企業に派遣する株式会社ハイテックに入社。派遣先の株式会社GSユアサの研究開発・技術サービス部門で経験を重ね、2013年にGSユアサに正式採用される。東京の営業所での4年間の勤務を経て、2017年からトルコに赴任。妻と子ども2人と一緒に移り住んでいる。

相手の文化を尊重した コミュニケーション

約百年にわたって二次電池（バッテリー）の開発・製造・販売事業に取り組んできたGSユアサ。自動車電池事業部に所属している村岡陽さんは、トルコの合弁企業に向向しています。ヨーロッパなどにユアサブランドの商品を展開する事業の統括を担当しており、開発から製造、販売までプロジェクト全体に携わっています。

「私が担当している自動車用電池においては、ハイブリッドカーの普及などにより活躍の幅が広がっています。そうした中で以前から商品展開を行っているアジアだけではなく、今後はヨーロッパをはじめアメリカ・中近東の販路を拡大していくこ

ら親睦を深めています」。

異なる文化の人ともすぐにコミュニケーションを図れましたか。

「高校時代に一年間アメリカに留学していたのですが、そこは日本人が自分しかないような田舎町で、文化の違いから当時とても寂しい思いをしたんです。そうした経験から自分も留学生の力になりたいと思っていました。長崎大学には、留学生の大学生活をサポートするチューター制度があり、学部時代にその制度を活用して講義で分からない部分をフォローしたり、課題を一緒に取り



前列中央に立つ村岡さん。トルコの合弁企業との展示会に出席し、現地スタッフとユアサの商品のPRを行いました。

組んだり、時には一緒にアルバイトをすることもありました。そうして留学生と交流を深めた経験から、コミュニケーションの苦手意識は特にありませんでした」。

自分にできることを探し 実績を積み重ねていく

長崎大学では環境科学部の環境保全設計コースに進み、大学院博士課程まで修了したそうです。

「はい。小さい頃から関心があった水質浄化に関する研究に取り組みました。最初は物理的なフィルターを用いた水質浄化を研究していたのですが、途中から微生物による分解を活用した水質浄化にアプローチを変えました。所属ゼミとは異なる専門外の分野の先生方にも話を聞きに行ったのですが、快く応じてくれて。文理分けにとらわれず、テーマに対するアプローチは自ら考える。そんな環境科学部の自由な気風が自

仕事で役立っている 大学時代に身につけた能力

トルコで自動車用電池のプロジェクト全体に携わるにあたり、営業的な視点と技術的な視点のどちらも必要とされています。多角的に物事を捉える能力も必要で、実はそうした力は大学時代に養われたと思っています。当時一番印象に残っている講義は、水質浄化とはまったく異なる専門外の哲学や文化人類学でした。これまでにない考え方を示され、世の中にはこんな考え方もあるのかと衝撃を受けたんです。それで毎回、最前列でかじりつくように受講していました。大学時代は、こうした一般教養としての視野を広げる機会に恵まれていたと思います。海外では、日本では考えられないような突拍子もないことも起こります。そうした時に広い視野で物事を捉えるためにも、懐を広げておく必要があるのではないのでしょうか。

分には合っていたと思います」。

もともと技術開発や研究職を志望していたのですが、現在の仕事にギャップは感じませんか。

「社会に出ると、自分の専門性をそのまま仕事に生かせるとは限りません。それでもすぐに諦めるのではなく、必ずできることがあるはずだと考えて道を切り開くことが大事だと思います。私自身、国際的に活躍したい気持ちもあったので、入社当時

から海外駐在を希望し続け、必要な能力を磨いてきました。チャンスだと感じていたのは、自分の業務外の仕事を指示されたときです。駐在員は日々多くの課題に向き合う必要があります。専門外の仕事でも臆せず取り組む姿勢が対応力を鍛えることにつながります。そうやって見通しを立てて努力したことで、トルコ赴任を獲得することができたのだと思います。もちろん、駐在はゴールというわけではなく、キャリアプランの中における一つのマイルストーンです。現在も自分に足りない部分に直面する毎日ですが、確実に経験を積み重ねることができています」。



トルコには家族4人で移住。休日には旅行を楽しんでおり、現地での子育てにも徐々に慣れてきたそう。

世界と
つながる

長崎大学の
卒業生

Graduates of
Nagasaki University
Connected to
the World

諦めずに情熱を持ち続けて 自分だけの役割を見つめる

G.F.Handel Music Academy ヴァン講師

柳井知子さん YANAI Tomoko

ドイツ



Profile

やないともこ
山口県防府市出身。2002年に長崎
大学大学院教育学研究科を修了。そ
の後、海星中学・高等学校で音楽の
教員を務めながら、2005年に行われ
たイタリアのザイラー国際ピアノコン
クールに出場し2位受賞。福岡市のイ
ンターナショナルスクールでのピアノ
講師を経て、2018年からドイツの
G.F.Handel Music Academyで勤務。

自分の進みたい方へ向かって
手を抜かずに全力で取り組む

快活な語り口が印象的な柳井知子さんは、長崎大学大学院教育学研究科を修了後、現在はドイツ・デュッセルドルフ在住。ヘンデルミュージックアカデミーのケルン校とデュースブルク校で、教鞭を執っています。

「通っている生徒たちは三歳から十八歳までで、現在は三十八名の生徒を担当しています。授業中の言語は基本的に英語ですが、生徒の国籍はドイツ、イギリス、アメリカ、インド、中国など多種多様です」。

レッスンの中で心掛けていることはありますか。

「音楽的に優れた楽曲には、普遍的な価値や温度、色彩、感情などが感

覚されながらのピアノ練習で苦勞しましたが、快く送り出してくださった学校にも感謝しています。私は昔から、ある程度やったからもういいとか、この仕事ですとやっていると、だんだんうんとか、自分の中でそういう感覚はなかったんです。だから人から「なんでその年齢になって」と思われても関係なく、自分でチャレンジするタイミングを決めてきました。昨年からドイツの音楽学校でピアノ講師になったのも、国際音楽祭の音楽監督の通訳をした縁で、オーディションの招待を受けたことがきっかけとなりました。うまくいくかは誰にも分かりませんが、本当に



「私みたいに他の人よりタイミングが遅くても、情熱を失わずに続けていけばきっと何かがある」と話す柳井さん。限界を決めずに挑戦し続ける気持ちを大切にしています。

やりたいことや活躍したい場所があれば、何かをするのに遅いと感じる必要はないと思います」。

前向きに取り組んだ経験が 独自の音楽人生につながる

学生時代の経験で、今の仕事につながっていることはありますか。

「ヨーロッパの音楽学校の講師の多くは演奏家になるための専門教育を受けており、皆さん素晴らしい音楽家です。しかしピアノをうまく教えるための訓練を受けている人は少なく、私は長崎大学の教育学部で、音楽だけではなく幅広い分野の知識を得ることができました。ピアノ教授法や音楽史などはもちろん、教育心理学や発達心理学、一般教養の政治学や社会学なども学んでいたことで、生徒一人一人の実態を的確に把握した上で、音楽作品を愛好し芸術的に演奏できるような成長を促す指

何でも飛び込んでみる 積極性を学んだゼミ活動

学生時代の思い出としては少人数でのゼミ活動が印象的で、現在は退官されている堀内伊吹先生には本当にお世話になりました。教育学部での学習内容と同様、音楽に限らずさまざまな分野に挑戦するチャンスを与えてくださったことを覚えています。自分の進路や人生計画についても、いつも明るく後押しをしてくださいました。また堀内先生自身、お忙しい中でもとにかくフットワークが軽く、様々な分野で幅広く活躍されている方でした。そうしたバイタリティー溢れる姿勢がとても印象的で、積極的にやりたいことに挑戦する今の自分らしさのルーツになっていると感じます。また堀内先生は地域の音楽文化を向上させるためにも積極的に活動されていたことを覚えていて、私もドイツに来て2年目ですが、いつか現地の音楽文化の振興に貢献できたらと思います。

導計画をつくることができている。また学生時代に留学生センター（現在の留学生教育・支援センター）でアルバイトをしていて、さまざまな国から来た留学生と交流する中で、多様な文化を受け入れる素地や基本的な英語力を身に付けました」。

柳井さんはピアノ講師という、自分の目標だった音楽に関わる仕事をしていますが、好きなことを仕事にしたいと考える学生にアドバイスはありますか。

「一つの強みで勝負するためには、限られた一流にならなければいけません。しかし頭を柔らかくして、興味のある分野を何かと組み合わせることで、自分にしかできない役割が見つかります。私にとってそれは音楽と、教育分野の研究と、英語でした。組み合わせは学生時代から考えられると思いますし、きつとあなたの役割を必要としている人がいます。その場所が私みたいに日本以外であれば、新しい言語の習得も必要かもしれないですが、やりたいことを見失わなければ情熱を持って頑張ることができると思います」。



国も文化も異なる子どもたち一人一人に合わせて指導方法を工夫する柳井さん。また子どもだけでなく、保護者とのコミュニケーションも重視。「メールや電話、手紙など、連絡方法も相手によって使い分けています」。

世界と
つながる

長崎大学の
卒業生

Graduates of
Nagasaki University
Connected to
the World

サイエンスという共通語で ネットワークを築く

to the World



Profile

なかにしたかし
長崎県長与町出身。45歳。2000年
長崎大学大学院海洋生産科学研究
科、博士(工学)取得。日本学術振興
会特別研究員としてアメリカ・ヒュー
ストン大学、イギリス・オックスフォ
ード大学を経て、2004年より物質・材
料研究機構に勤務。ドイツ・マックス
プランク研究所の客員グループリー
ダーなどを経て、2016年より現職。ポ
ーランド・ワルシャワ工科大学の客員
教授等を歴任。現在は、北海道大学と
中国・深川大学にも客員教授として在
籍。専門は機能性分子材料の開拓。

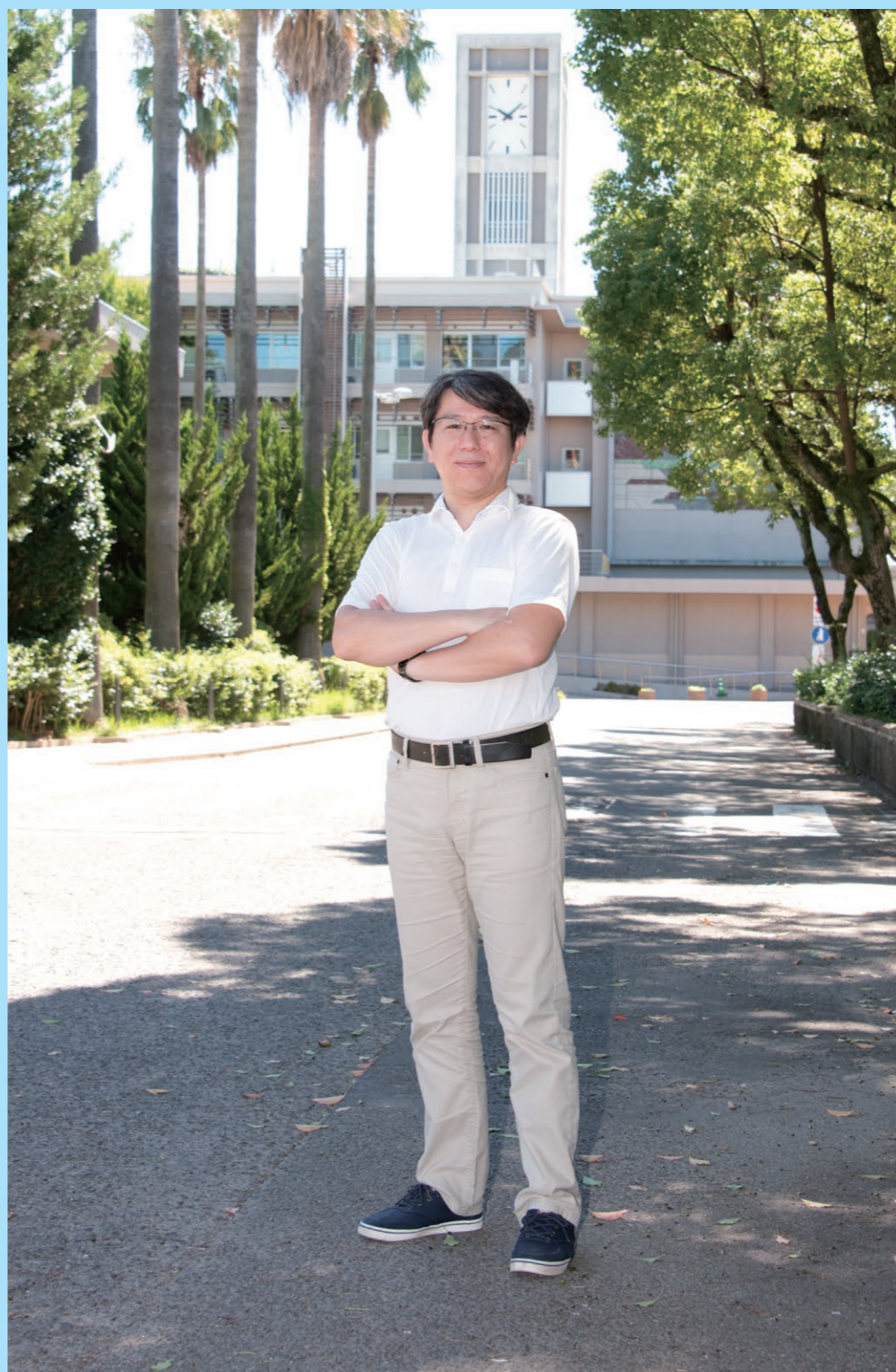
国立研究開発法人 物質・材料研究機構

中西尚志さん NAKANISHI Takashi

自分が作った新素材が AIや医療に生かされる

身の回りに存在する物の構成成分を
ほとんど細かくしていくとたどり着く
「分子」。この分子レベルで新しい素
材を研究する研究者、中西尚志さん
は、長崎大学工学部の卒業生です。中
西さんが所属しているのは、つくば市
にある国立研究開発法人 物質・材料
研究機構(NIMS)の国際ナノア
ーキテクトニクス研究拠点。

「言ってみれば、材料に関する総合研
究所ですね。国立研究所ですから、国
からドンとミッションが下りてきま
す。最近ならばデータサイエンスで、
データをため込んでAIで処理し、高
性能新素材の開発に役立っています。これ
には企業も注目しており、基盤技術つ
くり協力して取り組んでいます。ま



日、関連書籍も上梓しました」。

研究所でのグループには外国人も数
人おり、ミーティングは常に英語で進
められます。中西さん自身、大学院修
了後はアメリカで一年半、イギリスで
一年の研究員生活を送ったそうです。

た、私自身もフロンティア分子グルー
プのリーダーとして、自分で設計して
新しい機能を持つ分子の材料を作って
います。今手掛けているのが、新種の
液体材料です。液体は固体に比べて
と、どんな形にも変形できて、力を加
えても壊れることなく、材料として
使い勝手がいいんです。既存の例でい
えば、特殊な光を当てると光るインク
は、紙幣などのセキュリティ印刷に使
えますね。同様に、特徴がある液体を
作れば、医療機器に応用して脈拍や心
拍を電気シグナルとして検知するな
ど、素材の可能性が広がります。今
は、この液体の特性を深く知るための
実験や研究に取り組んでいます」。

「英語に少々不安があっても、サイエ
ンスという共通語で意思疎通はできま
した。現職のNIMS入所後、ドイツ
のポツダムにあるマックスプランク研
究所に客員グループリーダーとして三
年間滞在できたのも、キャリア形成に
役立ちました。独自の色が強い日本や
アメリカの研究スタンスと比べて、
ヨーロッパの場合、大きい研究予算を
取るときは必ずEUのネットワークで
挑みます。国籍が違ってもお互いをリ
スペクトして「いいサイエンスをしま
しょう」という雰囲気がありますね。
滞在期間中は、自分の研究分野に近い研
究者を各国に訪ね、数十人とネットワー

「あれ？」を見逃さない アーカイブの多さが鍵

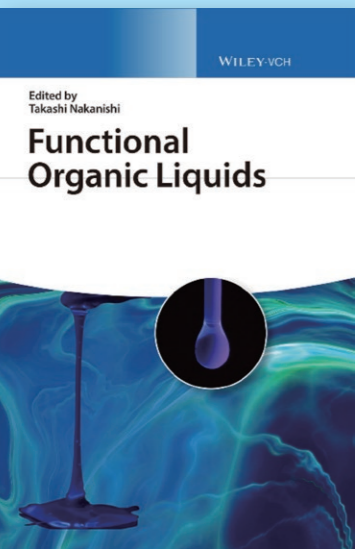
この世界に進んだのはなぜでしょう。
「大学入学時はこだわりもなく、自
分は物理より化学だな、と。素材作り
に惹かれて四年生で分子システム学研
究室に入ってから、がぜん面白くなっ
てきました。研究室の先生や先輩が大
変熱心で、ワイワイ言いながらポリ
マーや機能性材料の研究に夢中でのめ
り込みました」。

「君は早く海外に出た方がいい。その
ために、二年で博士の学位を取って、
一年間は海外に出なさい」と当時の村
上裕人先生(現・准教授)に背中を押
されたことも大きかったといいます。
師事していた中嶋直敏先生のネット

ワークで、海外の研究者に出会うこと
ができ、渡英の足掛かりにもなりまし
た。

「海外との接点をつくってくれたこと
は非常に感謝しています。当時、助手
や助教だった先生方も、今や准教授
や教授として活躍です。私にとって
はホームグラウンドのようなうれしい
懐かしさがありますね」。

最後に、研究者として成功するコツ
はありますか。
「そうですね。実験や研究の過程で
『あれ?』と思った時、いかに見逃さ
ないか。失敗をただの失敗として流す
より、立ち止まってよく考えてみる。
それで分からなかったら、とりあえず
頭のアーカイブ(引き出し)に入れて
おく。その場で理解できなくても、後
でひらめくことがあります。アーカイ
ブの数の多さが、発見や発明を呼び寄
せます」。



自身で開発した新機能液体に関する書籍
『Functional Organic Liquids』。(発行:
ドイツ・WILEY社)

後輩に伝えたい一言

グループメンバーにも常
に言っているのですが「研
究をとにかく楽しんで」。楽
しまないと続きません。若
い頃、あるプロジェクトで
出会った先生から「ホーム
ランを狙ってフルスイング
しなさい」と言われました。
三振でもいい。振り幅が大
きければ視野も広がります。
スポーツと同じで、イン
ターハイに出られなくても
チャレンジしたという事実
が、自分の自信やポテン
シャルにつながります。

茨城県つくば市にある物質・材料研究機構。
(提供:物質・材料研究機構)

観光産業の発展を目指して この街の魅力を発信する

to the World



Profile

なかざきけんじ
長崎県長崎市出身。57歳。1985年に長崎大学経済学部を卒業後、長崎県庁に入庁。2011年から4年間アジア・国際政策課長を務め、2016年対馬振興局長に就任。2018年より現職。国内外からの誘客に加え、宿泊施設の品質向上や観光人材の育成に取り組むなど、観光産業の活性化に向けて尽力している。大学時代は漫画研究会に所属。毎年、手描きのイラストを添えた年賀状を送っている。

長崎県文化観光国際部 部長
中崎謙司さん NAKAZAKI Kenji

高いポテンシャルを 観光産業に生かす取り組み

文化、国際、観光などの分野を所管する長崎県文化観光国際部は、長崎県の魅力を最大限に結集して発信し、国内外から多くの人々を呼び込み、活性化につなげようとする部署です。その統括を担っているのが、経済学部出身の中崎謙司さん。海外との接点は多岐にわたりますが、いつ頃から国際関係の業務に携わってきたのでしょうか。

「二〇一一年に、本県の国際戦略を推進するアジア・国際政策課で、初めて課長になりました。海外の業務に関わったのはこの時が初めてです。それまで海外出張の経験はほとんどなく、語学力もありませんでしたが、もともと人と話すことが好き

です。さかのぼれば、上海在住の欧米人が船で長崎を訪れ、雲仙で避暑を楽しんでいた時代がありました。本県には他県にはない歴史的、地理的な強みがあります。文化、自然環境、食といった高いポテンシャルを観光産業の発展につなげなければと強く感じています」。

対馬振興局長時代には、釜山との交流も経験されたそうですね。「はい。対馬赴任中に、対馬が交流の橋渡しをした朝鮮通信使の記録が、ユネスコ『世界の記憶』として登録されました。釜山の朝鮮通信使祭りには、対馬藩主役で参加しました。韓国からの観光客が増えてきた時期でもあります。私自身、対馬は



長崎港を見渡す長崎県庁の屋上にて。

若い頃を過ごした思い出の地ですが、当時と比べて今の人口はその半分以下です。観光客の増加は、島が生き残るために欠かせない要素ですが、国家間の問題が絡んでくること

が多々あります。私たちの力では解決が難しい問題が発生した時は大変ですが、地道な地域間交流が関係改善に寄与すると思っています」。

大学時代の仲間の絆が 目標を後押ししてくれる

大学時代の学びが、実際に役立つていると感じますか。

「学びとは少し異なるかもしれませんが、経済学部には『瓊林会』という同窓会組織があり、卒業生同士の絆が固い学部です。大学生だった頃は組織について意識することはありませんでしたが、実際に観光事業者や企業の皆さんと向き合う中で、現

在の仕事に同窓の仲間との結び付きがとても生きています。お互いの思いを学生時代の感覚でざっくりばらんに話すことができ、地域経済の活性化について考える一つの切り口になっています」。

長崎大学では、経済学部のように各学部で同窓会を組織しており、OB・OGとのネットワークが、卒業後の進路などに生きてくることがあります。最後に、今後の課題や展望を教えてください。

「昨年、県内で二つ目の世界文化遺産として、今後の課題や展望を教えてください。」

進路選択の決め手は 長崎特有の雰囲気

対馬、山口県を経て、高校卒業後に長崎市内に移住。長崎で1年間の浪人生活を過ごしたことで、地域が持つ魅力や人の温かさを実感しました。地元大学の経済学部を志望し、県庁マンになると思ったのも、自然な流れだったと思います。経済学部では経済原論のゼミを選択。ゼミでの学びが仕事に直結する訳ではありませんが、地域経済について考え始めるきっかけになったことは確かですし、当時受けた公務員試験にも役立ったようにも思います。



2018年6月に中東パレーンで、潜伏キリシタン関連遺産の世界遺産登録を決定した世界遺産委員会に参加。前列には、瓊林会の大先輩でもある中村知事。

サークルの星!

キラッと光るサークルや
活躍する学生をクローズアップ!

同じ音楽を愛する
仲間とのステージは
かけがえのない経験!



龍踊部

地道な反復練習が力となって 見るものを魅了する龍踊を披露

地域のイベントやお祭り、学会などで長崎ならではの龍踊を披露する龍踊部。まるで生きているかのような滑らかな美しい龍の動きを生み出すには、地道な基礎練習が欠かせません。最初に入念な準備体操を行った後、棒の先端に鉄アレイを固定した手作りの練習器具「アレイ棒」を掲げて、基本的な龍踊の動きを体

に覚え込ませます。そして肩が慣れてきた頃に、実際の龍を使いながら演技の練習へ。スマートフォンで動画を撮影してフォームを確認し、細かな動きや全体のタイミングを調整していきます。龍踊の主演である頭の部分を担当する部長の横尾拓哉さん(工学部3年)いわく「胴体や尻尾と息を合わせるのが難しく、練習の中

で試行錯誤しています。頭の部分は6キロくらいあるので、入部前と比べると腕の筋肉はついたかなと思います」とのこと。部員のほとんどは県外出身者で、新入生歓迎会で初めて龍踊を知り、入部を決める学生も多いそうです。「せっかくだから長崎らしいことをしたいという気持ちでみんな頑張っています。練習の苦勞もありますが、数百人もの前で演技をして盛り上がる、本当にやってよかったです」と横尾さん。10月には毎年恒例となっている



練習器具を使いながら、龍踊の基本動作を体に覚えさせます。メリハリのある足さばきや、掲げた龍を安定させることが大切。

住吉まつりでの演技が予定されています。

龍踊は一体感が大事!
何度も練習を繰り返して
動きを合わせていきます

本番では龍踊だけではなく、龍囃子も部員たちが奏でています。また頭以外のポジションは全員が常にできるように準備しているそうです。



E-Rockers

多彩な音楽や人との出会いの中で 刺激を受けながら演奏に打ち込む

85名の部員がそれぞれバンドを組んで、演奏やライブを行なっている音楽サークルのE-Rockers。月に一度の学内ライブや学園祭、ライブハウスでの演奏を目標に、バンドごとに集まって部室やスタジオで音を合わせています。もともと音楽は未経験で入部後に始めた学生も多く、

サークル活動を通して自然と仲間が増えていくそうです。また毎年8月には音楽合宿も開催。みっちり2日間練習して、3日目に1年生の初披露となるライブを行います。演奏する楽器は、各々が自分たちで購入したもの。部長の中村亮太さん(工学部3年)も、苦勞しながらアルバイト



年3回のライブハウスでの演奏には、部内オーディションで選ばれたバンドが出演。

で貯金して自分のギターを購入しました。「長崎大学の音楽系サークルでは珍しく、E-Rockersではアコースティックギター限定のライブを年に2回開催していて、それに憧れて入部しました」。落ち着いた弾き語りから激しいロックまで、多種多様な音楽

ジャンルが集まっていることもサークルの特徴。「他のバンドの演奏がきっかけで、自分の聴く音楽の幅が広がります」と話す中村さん。学業やアルバイトとうまく両立させながら、音楽を通して仲間との交流を満喫しています。



普段は部室で活動し、本番前になると学外のスタジオをレンタル。「あの曲やってみよう」と声を掛け合い、笑顔で楽しみながら音を合わせています。

初心者から経験者まで
大歓迎!一緒に囲碁を
楽しみましょう

囲碁同好会

時に真剣に、時に笑い合いながら 奥の深い囲碁を楽しむ部員たち

静まり返った空間に、碁石を打つ音だけが聞こえる……そんなイメージとは違い、時には笑い声が響く和室は和気あいあいとした雰囲気です。さまざまな学部から部員が集まる囲碁同好会には、大学から囲碁

を始めた初心者も多く、最初は目の少ない9路盤からスタートします。13路盤、通常の19路盤と徐々に大きくしていきながら、実際に対局を重ねて先生や先輩からアドバイスをもらいます。真剣に碁盤と向き合う時

間を大切にしながらも、普段からとにかくにぎやかな部員たち。部長の石橋洋二さん(薬学部2年)は「集中する時もありますが、お互いに楽しむことが何より大事。囲碁より先に、同好会の和やかな雰囲気惹かれて入部する部員が多くて、僕もその一人です」と笑顔。そんな囲碁同好会に今年春、実績のある囲碁経験者が2人も入部しました。西日本対

抗戦の段位クラス九州代表の松尾周佳さんと、全日本アマチュア本因坊決定戦の長崎県代表となった田中裕天さん。日々対局を重ねながら切磋琢磨しているそうですが、にぎやかな同好会にもすっかりなじんでいます。「初心者に教えることで、自分の勉強にもなります」と話す2人。さまざまな部員が集まっても、囲碁を楽しむという思いは一致しています。



真剣な表情で碁盤を見つめる部員たちに、ふとしたきっかけで笑いが広がります。学年や学部もさまざまですが、お互いに話しやすい関係。



この春入部した松尾さん(前列左から2人目)と田中さん(中央)。和やかな部の雰囲気はもちろん、実力のあるお互いの存在が入部のきっかけになりました。

第7回 長崎地域医療 セミナー in GOTO 報告



交流会では五島市のご厚意で五島牛のバーベキューも! 美味しいものを前にすると、ハードなカリキュラムも何のその。

今回のワークショップは、二校の学生による学生実行委員会を中心として組み立てました。初顔合わせの学生たちのグループワークがスムーズにいくよう、パズルゲームを取り入れるなど工夫もされています。中でも秀逸だったのが、模擬症例として島で暮らす架空の三人の患者のケースを提示し、患者の要望や課題、短期・長期の具体的な支援策をグループごとに

まとめる、というものでした。最初はなかなか会話が弾まないものの、自身の専門分野の知識やフィールドワークで得た知見を生かしながら、議論がだんだんと活性化。島の人々の暮らしを「自分ごと」として考えながら練り上げていきました。

長崎大学の離島実習は常に、五島中央病院の中にある「離島・へき地医療学講座離島医療研究所」のスタッフが中心となって運営されています。学生の実習だけでなく、他大学と共同の疫学研究なども行っており、十年以上にわたり築かれた信頼関係と地元の方々の協力があったからこそ、このようなセミナーの開催が可能なのです。ちなみに五島市では、人口減少の課題に対して若い世代のUターン、Iターン定住の取り組みも行っており、昨年は県下で二位の二〇二名という実績をあげています。来年度は日本語専門学校を開校し、留学生を一〇〇名以上呼び込むのだそうです。

長崎大学では、今後も離島の持つポテンシャルを生かしつつ、積極的に実習プログラムを組んでいきます。

島の問題を「自分ごと」に

学生主体のワークショップで

「ヘルスケアという大きな輪の中で、医療、保健、介護、福祉の連携が叫ばれています。しかし離島地区では、その課題について以前から取り組んできました。学生の皆さんには、フィールドワークやワークショップを通じて、医療系が持つ診断や治療といった医療モデルと、福祉系が持つ生活を支えるサービスや補助といった生活モデル、これら二つを合わせた合同モデルの提供を考えていただきたいですね。『多職種連携』を言葉だけでなく現場の課題の中で学

ぶ良い機会です」。今回参加した学生は、二校合わせて四十八名。八本の講義と6セクションのワークショップ、フィールドワークと、内容はぎっしり詰まっています。もちろん、夏の五島を楽しむ野外交流会や海水浴などのアクティビティも盛り込まれていました。フィールドワークでは、地域中核病院、二次離島の診療所や介護施設など、九つの受け入れ施設に向きました。その一つ、特別養護老人ホーム只狩荘の山田峰雄施設長にもお話を伺いました。

長崎大学の特徴の一つに、医・歯・薬学部などで行われる離島実習が挙げられます。

島の数が日本一多い長崎県の地の利を生かし、本土より早く少子高齢化が進む離島で実習することで、将来役立つ実践力を身に付けようというものです。

さまざまなカリキュラムの中で最大規模のセミナーが、この夏開かれました。



注目の離島実習における医療と福祉の合同モデル

毎年八月に行われる「長崎地域医療セミナー in GOTO」。長崎大学医学部医学科の学生と長崎純心大学人文学部地域包括支援学科の学生を対象とする共同プログラムです。七回目の今回は、八月二十五日〜二十七日の三日間、五島市の全面協力の下で開催されました。ずっと携わってこられた長崎大学前田隆浩教授（生命医科学域）のお話です。

「当施設は、県内でも初めて『日中おむつゼロ特養』として認定されました。水分摂取や食事、排泄、運動などを理論的に管理して、利用者の自立支援を促します。そうすることで職員も達成感を得られ、モチベーションも上がります。特養介護施設は、介護士、作業療法士、理学療法士、ソーシャルワーカー、歯科衛生士、管理栄養士など、十種以上の専門職が働く多職種連携の現場で、情報をデジタル化して共有するなどして

ワークショップ



2校混合のグループで模擬症例に取り組みました。時折、講師の先生方からヒントをもらい、離島の暮らしの背景を聞きながら、医療と福祉、両面から課題解決の道を探ります。

フィールドワーク



只狩荘では最新の入浴補助機器も見学。「今、IoTの技術は介護現場にどんどん導入されており、デジタルに対応できる職員も求められています」と施設長（下写真・左）。

オープニングと講義



富江町公民館を3日間借り切ったのセミナーは前田先生（右）の挨拶で始まりました。「10年後のあなたはどんな医療を学べばいいか」と語る佐野潔先生（左上）や対馬で産婦人科医として働く山内祐樹医師（左下）など、最前線で活躍する講師陣の刺激的な講義が続きました。

超高精細な 魚図が語る 本当の名前

グラバー図譜ではテンジクイサギと
同定されたこの魚、実はノトイスマ
です。日本には現在四種のイスマ属
魚類が知られていますが、当時、間違
えられたのも無理はありません。ノト
イスマはまだ知られていなかったの
ですから。それにしても、今から百年
以上も前にノトイスマが長崎の海に
確かに存在していたことを伺い知るこ
とができるのは、厄介者とか考えら
れていないこの魚を研究する私にとっ
て、実に感慨深いことなのです。

ノトイスマの存在が初めて明らか
にされたのは一九九一年のこと。イスマ
属を表す *Kyphosus* とは、“腰が曲
がった”を意味するギリシャ語に、
bigibbus とは、“二つの瘤”の意味のラ
テン語に由来します。分布域は広く、
能登半島以南の日本沿岸からインド・
西太平洋沿岸の温暖な海に生息します。
長崎県下では、“ヒツツウ”、“ヒチクレ”
などの呼び名で親しまれ、小笠原諸島
などでは重要な食文化の一端を担って
きました。独特の臭みを抑えるために
は漁獲後速やかな処理が必要で、身は
は少々灰色味があり、噛んだ時に強め
の弾力を感じるものの、何より大きく
て肉厚なところが魅力です。研究室で
一匹料理すれば、育ち盛りの？学生た
ちがもう十分！というほどお腹を満た
してくれます。バターを使ったムニエ

ルや、香辛料を効かせた炒め物なら瞬
く間にお皿は空になります！

海藻を食べて 大きく育つ

私たちの研究により、産卵期は夏、
稚魚は流れ藻に付随し、その後岩礁地
帯へと生息場を移すと海藻だけを食べ
て大きく成長することがわかりました。
日本の沿岸域では藻場の減少が深刻で
す。その原因は未だ解明されていない
ものの、一九九八年の長崎県の水産試験
場による報告以降、イスマ類やアイ
ゴなどの魚類による摂食がその一因と
して指摘されるようになりました。対
策に頭を抱えた地元自治体の方々が、
赴任したばかりの私に相談にいられた
ことが縁で研究を始めることになりま
した。今から二十年近くも前のことす。
さてどこでどんな調査を展開するべ
きか？と海図とにらめっこした後、ま
ずはフィールドの感覚をつかむため野
母崎の海へ。漁船に乗せてもらって魚
の種類を一つ一つ改めて調べ直すこと
から始めました。すると、これまでイ
スマと報告されていたものはほぼノ
トイスマの誤同定だったことがわか
ったのです。

磯焼けとの 因果関係はいかに？ 私たちの研究は続く

ノトイスマの食性研究は極めて難
しいものでした。お茶を飲んだ後に急
須に残るお茶殻をイメージできますよ
ね？胃の中身は、さまざまな銘柄の緑
茶、紅茶、ウーロン茶がちや混ぜに
なった塊のようなものでした。しかも
その量の多いこと！何という大食漢！
それをピンセットで一つ一つ拾い出し、
顕微鏡で組織構造などを観察しながら、
同定し、測定していくのです。ジグ
ソーパズルのピースを埋めるように。
しかし、延々と続く、面倒にしか見え
ない作業こそが、魚の生態や、季節ご
とに移り変わる藻場生態系そのものを
容易に想像させ、その変化を体感させ
てくれる重要なものなのです。発信器
を装着した行動追跡や飼育実験からは
面白いことが見えてきました。日の出
とともに毎日同じ経路を通って藻場に
やって来て、日没とともに去ること、
大型褐藻類の柔らかい根元の一部だけ
をついばむため、食いちぎられた海藻
は倒れて海底に横たわり、アワビやサ
ザエの餌になること。ノトイスマの
摂食活動は生態系にとって必要なも
のなのです。群れを成したノトイスマ
ミが大型褐藻類を切り倒した後は、
好みのホンダワラ類からなる藻場が形
成されます。さまざまな関係性から成
り立つ生態系は刻々と変化するも、絶
妙なバランスで保持されているのだと
悟ったのです。

イスマはわずかに二〜三歳で成熟する
のに対し、最高齢は四十六歳と長寿で、
生涯の繁殖可能な年数は極めて長いこ
とがわかりました。私たちが十五年に
及ぶ試行錯誤の末に切片観察法を確立
するまで、世界中のイスマ類で年齢
査定に成功した例はありませんでした。
この研究により温暖化傾向が顕著に
なった一九九〇年代後半にノトイスマ
ミが急増した可能性も示すことができ
ました。しかし、まだ研究は終わって
いません。対馬などにも調査地を広げ、
更なる新事実が明らかになりつつあり
ます。長い年月を費やして研究を重ね、
積み上げていくことで大きな成果が得
られることもあるのだと実感していま
す。近年では科学技術の発達が目覚ま
しく、短時間でビッグデータを得るこ
とも可能となりました。しかし、技術
を使う力、得られたデータを読み解く
力が必要です。百年以上前の図譜が今、
私たちに過去を教えてくださいました。私
たちの研究が将来の藻場生態系の保全
に役立つことを願ってやみません。

※グラバー図譜では、倉場氏よりテンジクイサギ(学名:
Kyphosus chrysocentrus)と同定されましたがこの図譜
に描かれた背鰭および臀鰭の形態や軟条数、また頭部の
形態などからテンジクイサギではなく、ノトイスマと同
定できます。



長崎大学附属図書館のホームページでもご覧いただけます。
<http://oldphoto.lb.nagasaki-u.ac.jp/GloverAtlas/>

「グラバー図譜」は、長崎の実業家であった
倉場富三郎氏が編集したコレクションです。
日本四大魚譜の一つといわれています。

さて、魚類の内耳には炭酸カルシウ
ムを主成分とする耳石があることをご
存知でしょうか。そこに形成される木
の年輪のような輪紋をもとに、年齢を
解析することができます。なんとノト



解説 山口敦子
長崎大学水産・環境科学
総合研究科教授
Atsuko YAMAGUCHI
東京大学大学院農学生命科
学研究科博士課程修了。
2000年から長崎大学。専門
はエイサメなど魚類学と水産
資源学の研究。主な著書に
「干潟の海に生きる魚たち—
有明海の豊かさ危機」(東海
大学出版)など。

Glover Atlas ノトイスマ

Kyphosus bigibbus
画家 萩原魚仙

グラバー図譜
日本西部及び南部魚類図譜
Fishes of Southern
& Western Japan

長大生の未来を支える

西游基金

ご支援の
お願い

「西游基金」は、長崎大学が出島を介した「勉学の地」としての誇りと「進取の精神」を受け継ぎ、地域の持続的発展から地球規模の課題を解決するための傑出した人材育成を目指し、本学独自の修学支援、教育・研究の幅広い支援を目的として開設した基金です。皆様のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

長崎大学西游基金



Nagasaki University Fund
Saiyu Kikin



寄附の
お申込み等は
こちらから



長崎大学 西游基金 検索

長崎大学
広報戦略本部 校友会・基金室
〒852-8521
長崎県長崎市文教町1-14
TEL.095-819-2976
FAX.095-819-2156
nukikin@ml.nagasaki-u.ac.jp

https://www.nukikin.jimu.nagasaki-u.ac.jp

Nagasaki University Fund Saiyu Kikin

Choho

長崎大学広報誌
[「チョーホー」]

編集後記

グローバル人材を養成するための数々の特長的なプログラムが、長崎大学の各学部で用意されていることは、これまでのChohoで紹介してきました。今回の特集では、「世界とつながる長崎大学の卒業生」と題し、それぞれの分野において、世界的に活躍されている卒業生6名の方々に、学生時代の学びや経験が現在の仕事にどのように結びついているのか、今、どのような思いで頑張っておられるかなどを熱く語っていただきました。受験生の皆様には、自身の将来像を描きながら受験する学部選択の参考にいただければ幸いです。

さて、Choho創刊から69号までの17年間、編集長を担当して参りましたが、次号70号からは山口純哉准教授に編集長を担当いただくことになりました。私は一編集委員として残ることにいたしました。また長年、厳しいながらもたいへん有益なご意見をいただいた浅野 眞 企画編集アドバイザーは、本号をもって退任されることになりました。新たなChoho企画編集体制の下、これからのChohoにご期待ください。

(原田哲夫)

【編集・発行】Choho企画編集会議

編集長
原田 哲夫 工学研究科 教授

副編集長
山田 明徳 水産・環境科学総合研究科 准教授
當山 明華 大学教育イノベーションセンター 助教

編集委員
滝澤 克彦 多文化社会学部 准教授
牧野 一穂 教育学部 准教授
山口 純哉 経済学部 准教授
友澤 悠季 水産・環境科学総合研究科 准教授
佐々木 均 病院 教授
安武 敦子 工学研究科 教授
馬越 啓介 工学研究科 教授
西田 憲司 やってみ〜でスク マネージャー
宮 一則 広報戦略本部長 教授
本田 靖幸 広報戦略本部長 課長
北島有佳子 広報戦略本部 主査
向井 愛 広報戦略本部 主任
坂本 道亮 広報戦略本部 主任
北村 春香 広報戦略本部

大口 尚子 編集
川良 真理 編集
藤本 明宏 編集
三浦 秀樹 デザイン
浅野 眞 企画編集アドバイザー
池田 幸恵 企画編集アドバイザー

TEL.095-819-2007
FAX.095-819-2156

www_admin@ml.nagasaki-u.ac.jp

Choho(「チョーホー」) Vol.69
2019年10月1日発行

クイズへのご応募は右記からも可能です。



お詫びと訂正

「Choho 68号(2019年7月1日発行)」11~12ページの記事に、下記のとおり誤りがありました。謹んで訂正し、お詫び申し上げます。
(正)坂口 弘見
(誤)坂田 弘見

Information

2019年度(後期) 長崎大学公開講座

◆被爆者健康講話

日時/2019年10月17日、11月21日、12月19日、
2020年1月16日、2月20日、3月19日
原則毎月第3木曜日14:00~15:00
場所/長崎会場
国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館
(五島会場)
五島市福江総合福祉保健センター
※五島会場はインターネットでの中継講話となります。
申込み/不要(定員:80名)

◆核兵器廃絶市民講座 「核兵器のない世界をめざして」

日時/2019年10月26日、12月14日、
2020年1月25日 土曜日13:30~15:30
場所/国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館
申込み/不要

◆地域社会の暮らしを支える 人や組織の社会性

日時/2019年10月9日~11月6日(全5回)
毎週水曜日 19:40~21:10
場所/経済学部 講義室(片淵キャンパス内)
申込み/2019年9月4日(水)~10月2日(水)
(定員:50名)

◆長崎県がん診療連携拠点病院 県民公開講座 「がんについてよく考えよう」

日時/2019年10月14日(月・祝)
13:00~16:00
場所/長崎県庁 行政棟 大会議室ABC
申込み/不要(定員:300名)

◆薬害講義 薬害根絶への願い ~薬害肝炎事件原告者として~

日時/2019年10月31日(木) 14:30~16:00
場所/長崎大学 薬学部2階
多目的ホール(文教キャンパス内)
申込み/2019年9月2日(月)~10月18日(金)
(定員:30名)

◆夢持ち続け日々精進 ~変える勇気と行動を~

日時/2019年12月10日(火)
15:30~17:30
場所/長崎大学 中部講堂(文教キャンパス内)
申込み/要申込
※申込方法詳細は決まり次第、
ホームページへ掲載します

- 申し込み期間が終了したため掲載していない講座もあります。
- 開催内容・日時などは都合により変更することがありますので、ご了承ください。
- 公開講座全般に関するお問い合わせ先
長崎大学地域教育総合支援センター TEL.095-819-2233



最新情報は、
長崎大学公開講座
ウェブサイト
でご覧ください

2019 長大祭

響和

11.2SAT — 3Sun

2019年で48回目を迎える長崎大学学園祭、
通称「長大祭」の今年のテーマは「響和」!

ミスコン、子ども企画、人気芸能人によるお笑いライブ、
大学生によるダンスやバンド演奏など、さまざまなイベントが目白押し!

学生によるバザー店舗も数多く並びます!

長大生だけではなく、親子連れから地域の方まで楽しめること間違いなしの長大祭!

皆さまのお越しをお待ちしております!

長崎大学学園祭運営委員会

詳細はこちら!



写真/2018年 長大祭の様子



広告掲載に関するお問い合わせ/広報戦略本部 TEL.095-819-2007

プレゼントクイズ

片淵キャンパスにある環境会館が建設されて、今年で100年になります。れんが造りの2階建て、建坪約83坪、延坪約161坪の建物の総工費は当時いくらだったでしょうか。

- ① 6万5,000円
- ② 10万円
- ③ 13万5,000円

解答は挟み込みのハガキにご記入のうえ、郵送してください。
長崎大学のウェブサイトからもご応募できます。
正解者の中から抽選で10名の方に長崎県産品をプレゼント!

前号の答え/①中華人民共和国

長崎大学で学んでいる留学生の出身国で人数が一番多い国はどの国でしょうか?

1位の中国は2019年5月1日時点で237人と飛び抜けて多く、2位の韓国が68人、3位は台湾で35人という順位です。全体では国(地域)数が55カ国、学部では多文化社会学部が44人でトップ。国際色豊かなキャンパスでは、異文化交流も経験できますね。

今回のプレゼント

今回は、吉岐の伝統料理を気軽に堪能できる、うにの炊き込みご飯の素が登場です。お米と一緒に炊飯器で炊くだけで、うにの身がごろっと入った贅沢な一品が完成。30年近く地元で愛されてきた「うに釜めの素3合用」を、時代のニーズに合わせて2合用にリサイズした新商品です。食材豊かな吉岐島で、手作業で作ることを踏まえ、温かみのあるかわいらしいデザインと形状にしました。第50回長崎県特産品新作展「水産加工品部門」の奨励賞を受賞。正解者の中から抽選で10名にプレゼントします。



うにめしの素(2合用)×2個セット。2,160円(税込)。

提供/吉岐水産株式会社(吉岐市) TEL.0920-45-2047

長崎県物産館 TEL.095-821-6580 http://www.e-nagasaki.com/contents/bussan_bild/